

日本のこどもは日本の母の手で

— 教育は「賣藥」に非ざらざる論文をよんで —

大阪帝國大學醫學部講師 醫學博士

竹 村

一

HYGIEIA の Sept. 1938 には特に Education について書かれてある。之は九月が入學始期であるから親達へ注意を與へたこゝであらう。

その内「Education Isn't "Patent Medicine"」の題で Richard Fehheimer さんが面白い事を書いてあつた。

「教育は「賣藥」ではない」と云つてゐるリチャード・フェッチハイマー氏はどういふ人か、私は一向に知らぬ。

然しこの一文を読んで、親さう自分さう、こゝもの教育をおまかせしてある幼稚園の保母さん、小學校、中學校、大學の先生さうその兩方の立場について大に考へさせられた。

日本のこどもをより心身の健康な日本人に育成するこゝが日本のあらゆる教育層に於ける健康教育の目標であること主張してゐる私の提案に對して矢張り「日本人であるこゝ

ふ認識——人格が與へられ——樹立されるのは日本の母親であるこゝを、更に最も幼い時代をあづかる保母さん達により多く、より強くこの認識が必要なのではなからうかこゝを感じがした。

教育は何にでもきく a Patent medicine ではない、又教育は「Mental health and growth require as Careful diagnosis and hygiene us does physical health.」のこゝを忘れてはならぬ。

私は幼稚園に「母親學校」を附設するこゝの必要性を屢々説いた。殊に一昨年、基督教幼稚園五十年記念講習會の席上では記念事業として開設せられんこゝをも私は要望した。

日本のこどもは日本のお母さんの手で、日本人としての基礎がきづかれなければならないのである、それには母親の再教育が如何に必要なこゝであるだらうか。

倉橋先生がこゝ數年來殊に力を盡してゐられるこの一つは亦この母親の再教育運動ではありますまいか。

日本のすべての保姆さん達がこの事變下の第二年目に於て、長期建設の叫ばれてゐる今日、人的資源が其重要性を叫ばれてゐる今日、將來の心身ともに健康な日本人をつくる爲に心を新にして奮起して欲しいと思ふ。

それは、幼いこども達の爲にも、

其幼いこども達の母親の爲にも、

拙い譯文で所々間違つてゐるかも知れぬが、お許しを願つて一通り讀んで考へてみてゐただけで又參考になることもあらんかと思つて、譯出してゐた。

海の彼方の民族は異つてゐる、國情も異つてゐる、風土も異つてゐる、然しこどもを教育する親と教師との心と心との一脈には又同じ脈うつ處もあらんかと思ふ。

要は御一讀下さつて、日本のこどもの爲に、日本の母親の爲に、保姆諸姉が何かを御考へ下さつたら誠に幸である。

○

「……………母親が先生の肩の上へ責任を多く轉嫁することが出来れば出来るだけ母親は自分の暇が増えるだらう。けれども何處かにはつきりした限界がなければならぬ。そして兩親の仕事の内その限界によつて決定せられた

部分だけを學校は扱ふことが出来るのである。最も立派な先生であつてもそれだけの時間と、それだけの精力と、それだけの能力しかもたないのである。両親は自分の子供がたゞそれだけをうけることを期待出来るのみである。

勿論丁度「賣藥」のやうに教育はあらゆる悪癖に對する治療であるとして廣告されて來た。「あなたの娘さんは平均がされて居ませんか。花嫁學校へやりなさい。」「軍隊の學校へやつてあなたの息子さんをたゞきなほしてもらいなさい。」「魅力と個性とを發達させなさい——魅力發達法の通信講座をまりなさい。」然しながら、教育に於ける賣藥流の考へ方は製藥の方に於けると同じやうに確かに馬鹿げた話である。精神的健康と發達は肉體的健康と同じやうな診察と衛生法とを要求する。そんな公立小學校の先生にでも自分の生徒の個人的必要を一一分析する時間があるだらう。それにもかゝらず「うちのデニイをもつこよい子にして下さい。」「頼まれなかつた先生があるだらうか。

ほんの近頃或るかなり成功した實業家が威猛高になつて次のやうに語り出して晚餐會の一座の人々を驚かした。「大學なんて詐欺行爲だ……泥棒だ！何さかして金を取り返さずにやならん！」彼はテーブルをたゞいた。彼の顔は赤かつた。そして彼が非常な大男で又非常に怒つて居たものだから他の客達は明に君子は危きに近づかざるを以てよしと

なすこ考へた。

彼はつゞけて云つた。「四千ドル……子供を大學へやるのにこれだけかゝつた！ だのに一體それから何を得たか云ふのだ？ 彼の父親でもそれから一體何を得るのだ？ 我々が得るものは利己主義な自惚れの強い親の手から何を取るこゝが出来るか云ふこゝばかり考へて居る青二才ごもだ。」

そこに居合せた誰かドナブキンで口をふきながら「この父にしてこの子ありだ。」と云つた。他の一人が勇敢にも聲高に大學から人格の陶冶まで期待するこゝは出来ない云ふこゝを仄めかした。

「それぢや一體大學から何を期待するこゝが出来らんのだ？ 諸君お聞き下さい、私は工場の原料を買ふ時にはもう金を拂ふ前からそれだけの利益があるか云ふこゝを知つて居る。機械を買ふ時には一セントも拂はない前から一つ一つの機械がそれだけの仕事をさするかも知つて居る。けれども私が自分の子供に教育を買つてやる時にはそれがさうなるか誰にも分らん。さうだ、それがさうなるか私は今分つた……私は欺されて居たのだ。」

そして勿論この父親の云ふこゝは正しかつた。大學の教育は彼が期待したものを彼の息子に考へなかつた。彼は明かに大學は忙しい四年間の内に十七年もかゝつて形成され

た個性を造りなほすこゝが出来ると思ひこんで居たのである。十七年の間息子は力強い父の模範にしたがつて来たのである。そんなにまで曲つてしまつた枝はどんな立派な教授でも眞直にするこゝは殆んど出来ない——たゞさうやつてみるこゝが彼等の職務であつたとしても、そして教授の仕事は彼の學生の人格を造りなほすこゝでは勿論ないのである。彼の職務(そして一般教育の目的)は智的活動に於て學生の心を訓練するこゝなのである。若しなほ職務ありとするならばそれはきつて學生をも教師をも両親をも面喰はせるにちがひない。大學は思索を教へるこゝは期待されてもいゝ、だが決して子供達の精神的悪幣に對する賣藥だとして両親に提供されるこゝは出来ない。

シカゴ大學總長ロバート・M・ハッチンス博士はこの點について強い態度を取つて居られる。

親たちや納税者達が學校に期待するこゝの出来ない今一つのこゝはもろく家庭と教會と市に屬する多くの仕事を専攻するこゝである。シカゴに性的犯罪が多くなる學校で性のこゝを教へよと云ふ要求が起る、する局長はそれにも注意しやうと市民に保證する。又別の所に於ては自動車事故が増す學校で安全運轉法を教へよと要求する、そして安全運轉法の講座が設けられる。かくの如くあらゆるもの事に對する責任を學校に轉嫁するに於ては學校の課

程の中から教育を撤廢する。こゝになるだけである。

性、安全運轉法及び食卓作法は何處かよそで教へられねばならぬ、けれども學校は時間に制限がありその持つて居る時間の全部を學生の心を發達するのに必要とするのである。その心が適當に發達した男女の世代が來れば安全運轉運動の必要はなくなるだらう。けれども學校が家庭や教會の地位を占めるやうになれば最早や學校ではなくなるこゝは確である。

學校が期待されるこゝの出来ないなほ一つの事柄は間接的以外の方法によつて人格を造り上げるこゝである。若し學校が子供達を精出して働くやうに又彼等の心を以て精出して働くやうに訓練するならば彼等はそれを人格の確立云はずに人格を確立して居るのである。けれども若し兩親が自分の子供が成長して盗人になつてもらひたくないならば彼等は學校に頼るべきではない。若し子供が家庭で學ぶ習慣が彼を窃盜の方に向けるならば、若し彼の親たちが彼が若い盗人と交るのを許すならば、彼は賢い盗人になつて學校を卒へるかも知れない。學校は彼に讀み書きを教へるこゝは出来る、しかしそれは彼を家庭、映畫、新聞、ラヂオ、及び隣の男の子のやうな力強い能因から引き離すこゝは出来ないのである。かくて大學教育のみならず小學校育も亦學生の性格に大變革を來すには無力であるやうに思

はれるであらう。學校で過される時間は一日の活動のほんのちよつした一部分に過ぎないのである。教室内の仕事は一般に映畫やラヂオの番組に比べるさ凡そ無味乾燥なるものである。それがさうして同じやうに大きな影響を子供の心に及ぼすこゝが出来やう。教師は親が考へるこゝの出来る親切に較べるこゝ子供に必要で直に望ましいやうなものはほんの少ししか考へるこゝが出来ない。

たゞひ兩者が相等しい人格の力を持つて居るさしてもさうして教師の影響が親のそれ位大きくあるこゝが出来やう。

その上不斷に子供の心に激突して居る無數の他の影響があるのである——町々時勢の感情的雰圍氣、人生と同じやうに現實的な書物、近くに壓倒的に聳えて居る山。一目にはほんのつまらないもの、例へば壞れた玩具、迷ひ犬、親切な他人の言葉、秋の木の葉の燃える匂ひ、——これらすべてのこゝが相合して測り知られざる力となる所の小さな跡を残すのである。

パートランド・ラッセルのやうな教育の大熱心家でも學校教育にはその限界があるこゝを認めるであらう。「教育と善き生活」を題する彼の書物に於てラッセルは次のやうに書いて居る。

我々は怠惰で卑法で冷酷で間抜けである。我々にかうし

た悪い性質を興へるものは教育であるが教育は我々に反対の徳を興へねばならぬ。教育こそは新しき世界への鍵である。

然しながら同じ書物の先の方でラッセルは次のやうに書き加へて居る。

人格の確立……は主にもつゝ若い時代に行はれるべきである。若し正しくなされるならばそれは六歳迄に殆んど完成する筈である……。若し六歳までの子供が適當に取扱はれて来たならば學校當局者は純粹に智的な發達に重きを置き、さうしてなほ望ましき人格の發達はこれに頼るやうにすれば一番いゝ。私は確信して居る。

然し六歳以前に於てすらも學校は家庭や運動場よりも弱い影響しか及ぼさない。私の隣人が四歳の困つた女の子を持つて居た。この子は自分の望むものは何でも興へられた。彼女は我儘で自己中心主義で、全世界は彼女だけの所有物だ。明かに信じて居た。彼女は他の子供さうまくつき合ふことが出来ず、自分と同じ年の遊び友達は一人もなかつた。こゝは明かである。彼女は彼女の母が同時に遊び仲間であり下女であることを要求した。

或る日ふみ考へ違ひをした時に私はその子は幼稚園に行つたらいゝだらう。母親に提案して娘を近くの幼稚園へやつたのである。

後で私が聞いた所による。その子は學校の課業に調和しやう。こゝは全然しなかつた。さうである。教師は母親がやつたやうに彼女に侍いてくれなかつたので彼女は彼等が頼む。こゝは何もしやう。こゝしなかつた。彼女は他の子供さ親しくしやう。こゝさへしなかつたのである。彼女が學校で過した朝の三時間の間彼女は普通自分だけで居り、他の子供から引き取る。こゝの出来るすべての玩具を以て遊ばねば。きかなかつた。彼女はその幼稚園へ利己的なねぢけた子供さして行つた。學期の終りにも彼女はまだ利己的なねぢけた子供であつた。

然しその時には彼女の母親は自分の娘の明かな紀律の缺乏についての申分を持つて居た。私は全くむき出しに幼稚園が彼女の可愛い子供の氣質をこわしてしまつた。こゝ告げられた。私は、そして多分他の多くの人々も、私が彼女を購して彼女の子供を悪い處にやらせ、そこでその子は悪い習慣を教へられた。こゝ告げられた。私は私の馬鹿な顔を他人の事件につき出すべきではない。こゝ告げられた。この最後の陳述に對しては私は今滿腔の贊意を表する。けれども私は幼稚園が一日二三時間でその一日の残りの部分に於ける母親の影響を破壊する。こゝが出来ないから。こゝいふだけで幼稚園が悪い處だ。こゝ云ふ。こゝには同意しない。

人格も慈善も同じく先づ我家に始まる。それは茶匙で日

に與へる方がよろしい。

誰が先づ「我は日本人だ」といふ思索を體驗せをうえつけ
るであらうか、それは家庭の母——日本の母ではあるまい
か。

(終)

々注ぐ位の教育で教へこむことの出来るものではない。教育はそれ自身の重大な職務を持つて居る——それは思索を教へるに云ふことである。若しその教への副産物が立派な人格であるならば我々は過分の價値を受けたに云ふ點に於て幸運であつたのである。然し自分の子供が立派な人格を持つて居るに云ふことを確信したい親達は自らそれを子供

鏡さまお人形

倉 橋 惣 三

靜寛院奉賛會から頒布、本會に於て取次ぎの鏡様人形は、その貴い御ゆいしよに於て、是非とも、廣く全國の幼稚園、小學校、及び各家庭へ奉安をおすゝめしたいことであります。(本誌廣告欄)

しかも、私は、その嚴かな心を暫く別にさせていたゞいて、假りにたゞ一つの、まことに可愛らしい京の姫人形として、くつろいだ心もちで、皆さまにおすゝめいたしたのであります。なんこいふ、ふくよかなお顔、なごやかなおぐし、わけても、あきけない御立姿、ゆるやかに美しいお召もの。これこそ、眞に日本固有の童女美の具現を申すほかありません。これこそ、日本の女の子の座右の寶としたいものであります。

殊に、たゞへば、三月の雛棚に、日本の内裏さまに並べ飾つて眞に似合はしい日本人形を得ることは全く容易でありませぬが、この鏡さまこそが、それであります。そして、雛にかしづく子ごも達の清い心に、それこそ聊かのまさり氣のない、日本の心の清明の美を映せずにはないであります。